

子どもシェルター通信

「シェルターの春」

暖かくなったら寒い日が続き、強い風が吹き荒れて、ああ春だなあと感じる今日この頃です。シェルターも少しずつ春仕様になっています。庭木の色合いに変化を感じて目を止めると、新芽が出ているのに気が付きます。緊急避難場所であるシェルターでは外出もままならない子たちもいるのですが、そんな中でも花を花瓶に挿し、苗を鉢に植えて季節を感じてもらおうと工夫しています。

次の生活場所が決まるまでシェルターで過ごす子どもたち。年齢も性格もバラバラで、今後の方向性も違えば進むスピードも様々である為、同じ過ごし方をする子はいません。それでも、小さなシェルターの中で閉じこもって生活していても、なんとなくまとまっているのが不思議です。

シェルターでの過ごし方はそれぞれでも、生活を窮屈に感じて早く出たい人も、外に出るのが怖い人もいて、不安を抱えながら過ごしています。いざ退所の日を迎えるも、心置きなく送り出せることはそう多くなく、意気揚々と進んでいく姿を頼もしいなあと感じつつ、職員は不安でいっぱいです。シェルターを出た後の長い人生のことを考えると、退所後の支援の必要性を強く感じます。

昨年10月には岡山で子どもシェルターネット全国大会が開催され、全国の子どもシェルターから大勢参加されました。運営側、子ども担当弁護士、スタッフと3つ分科会があり、シェルター職員もスタッフの分科会を担当し、ワークショップをおこないました。子どもの話をきいてその気持ちを想像することの難しさを参加者と共有できたかなと思いました。懇親会にも参加し、他のシェルターの職員や開設の準備をしておられる弁護士の方々と話す機会もあり、全国に子どものことを考えて動いている人達が多くいることを知り心強く感じました。

平成29年度も立ち止まることなく子どもの支援を続けていこうと思います。

(文責 堀 瞳実)

